

通 信

コロナに負けず琉球諸島の自然を未来につなぐ沖縄生物学会会長 伊澤雅子

当山昌直前会長の後を受け、本学会会長の仕事をお引き受けすることになりました。

沖縄生物学会は1964年の設立から50年を越え、60年に近づこうとしています。その間には、残念ながら池原貞雄先生をはじめとする何名かの素晴らしい先輩方を失うという悲しい出来事もありました。一方では、新しい若い人たちも次々と学会に入ってこられて活躍されています。琉球諸島は世界的な生物多様性のホットスポットとしてさらにその価値を認識されるようになり、世界自然遺産の候補地としての推薦、国立自然史博物館設立の推進など、全国あるいは海外からも注目される動きが続いています。そこに住む私たちの責任もさらに大きくなり、「琉球諸島の自然を研究・解明し、守る、そしてそれらを100年後、1000年後に引き継いでいく」という責務を担っています。これは先輩方からの大きな宿題でもあると思います。

私たちのフィールドである琉球諸島は「島」とその周りの「海」です。最近の観光によるオーバーユース、次々と侵入してくる外来生物、人間ばかりでなく動物にも降りかかってくる交通事故、温暖化による海洋環境の変化などは、亜熱帯の生態系とそこに住む特色ある生物たちに重大な影響を与えています。沖縄の自然環境と生物の保全のために沖縄生物学会が果たす役割も会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

さて、今年は歴史に残る大事件としてCOVID-19のパンデミックが起きました。人間の生活にこれほどの大きな影響を与える世界的な事件は私の人生の中でも初めてのことでした。本で読んだ歴史や小説の中に出てくる「疫病の流行」というのを体験することになるとは驚きです。会員の皆様もご自身のお仕事だけでなく、研究活動もこれまで通りに行うことができず、お困りのこともあるかと思います。2020年は沖縄生物学会の第57回大会は開催することができませんでした。これから学会活動のやり方も工夫していかなければいけないかもしれません。でも、これを機に新しいやり方を導入したり、新しいアイデアを思いつくこともできています。特に、若い方たちのお知恵と発想には期待したいところです。若干不謹慎かと思いますが、自然環境やそこに住む生物は、加熱する観光利用がちょっとクールダウンした時期ができて、一息ついたかと思っています。私たちも自然との付き合い方をちょっと考える時間をもらったと思います。

最後に個人的なことですが、私は3月に琉球大学を定年退職しました。COVID-19のため、皆様にご挨拶をすることもできず心苦しく思っております。4月から北九州市立自然史・歴史博物館の館長を務めており、沖縄と北九州を行き来する生活となっております。いつも沖縄にすることができませんので、会員の皆様、学会の運営に関わる皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ICTも駆使して、会長として努力したいと思っております。皆様のご理解とご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

沖縄生物学会第57回大会中止のご報告

毎年3月になると学会幹事も慌たしくなります。ところが2020年はいつもと異なりました。新型コロナ(COVID-19)の感染が拡大しつつあったのです。未知のウィルスへの対応で各大学も混乱状態です。幹事会もこれまで経験したことがない対応をすることになります。以下、メールのやりとりから、経緯について、その概要を記します。

3月の幹事会は大学の自粛要請もあり、4月の初め開催に予定変更(0319〈3月19日〉)。大会中止や延期等の対応について早急に検討し、メールで議論する必要がある(0319)。三学会合同大会など5月以降に大会が実施される他の学会の情報収集を依頼(0319)。三学会は3月末に国内の感染状況や政府の対応方針を踏まえて開催の可否を決定とのこと(0319)。4/25-26に沖縄で開催予定の日本貝類学会大会は未定、6/6-7に開催予定の日本動物分類学会(京都)は3/19に大会開催案内がHPに掲載(0322)。発表申込と大会要旨の締め切りが4月17日、急ぎ方針を検討し、学会員へ早めの周知が必要。会場は、キャンセル料等は発生せず、延期する場合は調整が必要。医学系学会の開催日程カレンダーサイトでは4月までの学会は軒並み延期もしくは中止、ただし、5月に入るとほぼ予定通りの開催(0323)。4-5月は、県外出張は公費が禁止、自費が自粛なので他も同様とすると県外からの参加は事実上難しい(0323)。4月2日に幹事会を開催することを決定(0323)。貝類学会沖縄大会の延期情報(0327)。三学会中止の情報(0328)。幹事会にて大会中止案を決定(0402)。会長名で評議員への大会中止と代理総会についての案をメール会議にて諮る(0402)。会員へ大会中止の案内をメールとHPで連絡(0404)。

以上、細かいところは省略していますが、刻々と変わる情勢と今後の予測などを考慮しながらの選択でした。4月2日の幹事会では、第57回大会について検討する前にこれまで得られた周辺の状態を分析し、次に実施、延期、中止の場合、その他について話し合いました。その議論を経て中止案に行き着きました。予定していた大会の時期も迫っており、早めの対応が必要でした。振り返ってみると、その後も緊急事態宣言が出るなど予断をゆるさない状況が続いたこともあり、中止はやむえない状況下にあったと思われれます。

さて、私の方は、会長として二期目の任期を終えることができました。大学以外から選任された初めての会長ということでした。実は、私は幹事の経験がないこともあり、実務面で先を読むことに慣れていない状態でした。1期目は幹事のみなさんにお世話になりました。おかげで2期目からは、積極的に動けるようになりました。その時に思ったことですが、幹事については可能な限りいろいろな方に経験してもらった方がよいかもしいないと思いました。

学会の財政的な問題や池原記念号の発行などいろいろな課題がありましたが、みなさまのご協力により一つひとつクリアしていくことができました。しかし、まだ多くの課題が残されています。新会長には、今後の課題について引き継いでおりますので、これからも学会は前進し続けると思います。最後は何事も無く、と書きたかったのですが、大会中止という前代未聞の事態になってしまいました。今、振り返ってみると大変でしたが、これもよい経験になったと前向きに考えています。

2021年は、今の状況が好転し、大会が盛会に開催されることを祈念して、報告とします。

前会長 当山 昌直

令和2年度 第1回評議員会（代理総会）報告

今年は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で年次大会の開催が見送られ、それに伴い、例年大会会期中に行われている総会も通常のかたちで開くことができませんでした。よって、事前にHPを通じて会員にも周知していました通り、評議員会をもって代理総会とし、学会の運営に関する議案を審議する措置がとられました。

評議員会（代理総会）は令和2年7月20日(月)の19:00から琉球大学の大教室で、会長、幹事等をあわせ20名の出席者（+委任状4通、欠席3名）をもって開催されました。COVID-19感染リスク軽減のためソーシャルディスタンスを保ちつつ、マスク着用、窓を開放しての開催となりました。冒頭の当山昌直会長による挨拶では、大会開催の見送りやこのような変則的な大会運営は今年が最初で最後のものになることを願うというお話があり、戸田守代表幹事から、あらためて今回は変則的にこの会をもって代理総会とする旨の説明がありました。

審議事項の1番目として、任期満了に伴う会長と副会長の交代について審議がなされ、当山昌直会長にかわって伊澤雅子氏が新会長となること、千木良芳範副会長にかわって当山昌直氏が新副会長の一人となることが承認されました。次いで、戸田代表幹事から2019年度事業報告、藤田喜久編集幹事から学会誌57号の発行と58号の進捗状況についての報告がありました。事業報告のなかでは、昨年度の総会で通信の号数の表記に混乱があったこと、本年度の通信の発行スケジュールが大会開催の見送りにより変則になることが説明され、号数の確認、および発行時期の変更に関わらず年2回の発行が確認されました。その後、傳田哲郎会計幹事から2019年度決算報告、富永篤監査員から会計監査報告があり、ともに承認されました。続いて、戸田代表幹事から2020年度事業計画として、年次大会は開催できなかったものの、通信106号、107号の発行、学会誌59号の発行が提案され承認されました。また、傳田会計幹事から2020年度予算案が提示され、審議を経て承認されました。過年度予算案と変更点として、出版事業会計の「植物目録売上金」の項目の削除が挙げられ、これは同目録の残部がないことによるとの説明がありました（2019年度決算報告と2020年度予算案については、同封の資料をご覧ください）。

その後、第11回池原貞雄記念賞の選考について千木良芳範選考委員長より説明があり、2件の授賞の決定が報告されました。また関連して、池原貞雄記念賞の応募要項に記載のある被推薦者要件の見直しが提起され、研究奨励賞部門における年齢制限を削除することが承認されました（詳細は次頁）。

報告事項として、竹村明洋自然史博物館設立要請委員会委員長より国立沖縄自然史博物館設立に向けた取り組みについて説明がありました（詳細は本通信5頁）。また、昨年度の本学会評議員会で決議し、関係機関に提出した「慶良間諸島の外来イノシシ対策と希少種保全に関する要望書」が、環境省沖縄奄美自然環境事務所野生生物課から出された「渡嘉敷島における希少動物生息状況調査業務」と題する事業の仕様書のなかで明示的に記され、同要望書がこの事業の事業化のバックアップになったことが紹介されました。最後に、次期年次大会の開催形式について意見交換がなされ、オンライン開催や開催時期の変更の可能性も見据えつつ、可能な限り対面での大会実施を目指すことを確認し、代理総会を終了しました。

なお、4名の評議員（岡慎一郎氏、德里政哉氏、長井隆氏、水野拓氏）が今回の評議員会をもって任期満了のため交代となります。これまでの学会運営への貢献に感謝いたします。

代表幹事 戸田 守

第 11 回池原貞雄記念賞は安座間安史氏と沖縄こどもの国へ

2020 年第 11 回池原貞雄記念賞には、2020 年 1 月 31 日の〆切日までに、教育功労部門へ安座間安史氏と公益財団法人沖縄こどもの国の 2 件の推薦があり、同年 2 月 28 日に選考委員会が開催されました。選考委員は千木良芳範(委員長)、傳田哲郎、日高道雄、山川(矢敷)彩子(庶務幹事)でした。なお、選考委員の一人である安座間氏は今回被推薦者でもあることから、選考委員会には参加していません。厳正な選考審査の結果、両者とも池原貞雄記念賞の受賞にふさわしい経歴であると認められました。ただし、沖縄こどもの国は当初は教育功労部門での推薦でしたが、選考審査の過程で、教育功労部門よりも環境保護部門での表彰がふさわしいとの意見があり、推薦者に部門変更の確認を行ったところ、推薦部門の変更の問題はないとのことであったことから、環境保護部門での授賞としました。選考理由は以下のとおりです。

教育功労部門：安座間安史

1979 年から 37 年にわたり、県立高校の教諭、教育行政職等に從事しながら、高校生の生物研究活動等の指導や、沖縄県の自然環境教育プログラムの提供、地域自然の教育普及活動に努めた。特に、沖縄生物教育研究会発行の「フィールドガイド沖縄の生きものたち」の刊行において中心的役割を果たしたこと、ノグチゲラの保護増殖事業への協力、「蝶を指標とした環境診断」の開発と地域の自然に関する環境教育活動は高く評価される。安座間安史氏の沖縄の自然、環境教育に対する長年の取り組みや貢献は、沖縄生物学会として池原貞雄記念賞を授与するにふさわしいと認められた。

環境保護部門：公益財団法人 沖縄こどもの国

1970 年の開園以来、動物と人々との交流をとおして、地域の自然保護や環境教育の普及に努めてきた。とりわけ、傷病野生鳥獣類の保護・治療は、イリオモテヤマネコをはじめとする本県の貴重野生生物をも取り扱い、その飼育技術や繁殖技法の蓄積に努めるとともに、獣医学的知見の集積も図ってきた。また、ケラマジカやカンムリワシなどを対象とした野生生物の管理・保全研究の実施など、長年の沖縄の自然環境保護に対する取り組みや貢献は、沖縄生物学会として池原貞雄記念賞を授与するにふさわしいと認められた。

最後に、今回の選考審査の中で、池原貞雄記念賞の在り方に関わる議論もありました。とりわけ、次の二点については、今後の池原貞雄記念賞の推薦にも関係してくると思われるので、記して会員皆さまのご理解を賜りたいと思います。第一点は、研究奨励部門の 45 歳年齢制限は必要かという点です。応募要項では研究奨励部門の対象者は若手研究者とあり、その若手は概ね 45 歳未満と位置づけられていました。第二点は、対象者の職務と実績はリンクするののかということです。例えば、学校教職にあるものが児童生徒を指導していることが実績となるのかという議論です。今回の選考委員会では、45 歳制限は必ずしも必要ないのではないか、また職務と実績はリンクさせるべきではなく、あくまでも実績で評価すべきとして審査をいたしました。

この二点に関しては、池原貞雄記念賞の被推薦者の枠を狭めるものでもあることから、7 月 20 日の評議員会で議論され、やはり池原貞雄記念賞は広く門戸を開けるべきとのことから撤廃することで確認されました。次回から池原貞雄記念賞の推薦を行う際には、こうした点も踏まえながら、優秀・有能な人物・団体の推薦がなされることを期待しています。

前 池原貞雄記念賞選考委員会委員長 千木良 芳範

第2回 自然史博物館シンポジウムのご報告

沖縄生物学会が共催したシンポジウム「国立自然史博物館誘致シンポジウム」が令和2年1月20日に那覇市ぶんかテンプス館を会場として開催されました。これまで開催した5回のシンポジウムは日本学術会議（動物科学分科会と自然史・古生物学分科会）や一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会が主催してきました。6回目となる今回のシンポジウムは、前年度の沖縄県による「国立自然史博物館誘致基礎調査」(末尾のURL1を参照)をふまえて沖縄県が主催し、国立自然史博物館が沖縄の未来形成に果たす役割と責務についての議論、および県内での機運醸成を目的として実施されました。平日にもかかわらず、シンポジウムには、学術機関・行政機関・経済界・観光関連を含めて約160名の方々が参加しました。第一部の発表者およびタイトルは以下の通りでした。

第一部 基調講演 I

岸本健雄（日本学術会議連携会員、一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事、お茶の水女子大学・客員教授）国立沖縄自然史博物館の設立に向けて

基調講演 II

小林快次（北海道大学総合博物館・副館長・教授）日本の竜神、カムイサウルスの最新研究

第二部 有識者によるプレゼンテーション

佐藤圭一（沖縄美ら海水族館・副館長）沖縄美ら海水族館の動物研究と社会還元

基調講演 I では、自然史博物館についての概要説明、自然史博物館の立地、沖縄県との連携、そして国立沖縄自然史博物館の目指す目標と実施案などについて話題が提供されました。また、基調講演 II では、カムイサウルスの発見やその特徴、北海道における恐竜発掘調査の価値、そして新種発見がもたらす経済効果などが示されました。さらに、有識者のプレゼンテーションでは沖縄美ら海水族館の特徴、入館者の属性、研究活動事例、社会還元、環境保全、さらには経済波及効果などについての話題が提供されました。

第二部のパネルディスカッションでは、第一部発表者に加えて、西田睦（琉球大学・学長）、馬渡駿介（北海道大学・名誉教授）、安里昌利（那覇空港ビルディング株式会社代表取締役社長）、淵辺美紀（沖縄経済同友会代表幹事）、呉屋由希乃（ジーエルイー合同会社社長）、そして棚原憲実（沖縄県環境部・部長）が登壇し、会場からの質問に答える形式で国立自然史博物館のあるべき姿を語り合いました。また、沖縄に国立自然史博物館を誘致するための課題と解決策について議論し、県内外での誘致活動の認知度をあげていくための重要な提言がなされました。

「国立自然史博物館」を沖縄に誘致する活動は、沖縄県による誘致基礎調査を経て、さらに一歩前進した印象を受けました。

（付記）本シンポジウム10日後の1月30日には、日本学術会議から「マスタープラン2020」が公表され、その中で、国立沖縄自然史博物館構想は「重点大型研究計画」に採択されました。この重点大型研究計画については、広報用パンフレットが作成されています（URL2を参照）。

URL1 : <https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/shizenshihakubutsukan.html>

URL2 : <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t286-1-p1.pdf>



第一部（小林氏の基調講演）の様子



第二部（パネルディスカッション）の様子

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋

沖縄生物学会ホームページのSSL化についてのお知らせ

沖縄生物学会では、ホームページを安心してご利用いただくためのセキュリティ対応として、ホームページのSSL化（https化）を実施いたしました。現在は従来のホームページアドレスも利用可能ですが、年内を目途にSSL化したアドレスに一本化いたします。ブックマークされている皆様はホームページアドレスの変更をお願いいたします。

新ホームページアドレス <https://www.okibio.jp/>

Home

沖縄生物学会 The Biological Society of Okinawa

■TOPページ

学会案内

(1) [沖縄生物学会とは](#)
 (2) [学会会則](#)
 (3) [入会案内](#)

組織

(1) [役員](#)
 (2) [各種委員会](#)

● 沖縄生物学会とは？

沖縄生物学会は、1964年（昭和39年）7月19日に設立されました。琉球列島の生物を中心に、生物学の進歩と普及を図り、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とし、研究発表会・講演会等の開催、学会誌「沖縄生物学会誌」の発行、本会の趣旨にそった書籍の出版、そしてその他本会の目的達成に必要な事業を行います。沖縄の生物に関する教育・研究に興味のある方はどなたでも会員になれます。現在の会員数は約500名です。

沖縄生物学会 新幹事 紹介！

2020年度より、沖縄生物学会の幹事に新しく以下のメンバーが加わることになりました。新幹事の皆さんより、自己紹介を頂いております。

【庶務幹事 杉尾幸司】 琉球諸島固有の乾材シロアリの生態を研究して来ましたが、同時に、科学教育を専門としています。中高生が研究発表を行う「沖縄科学教育シンポジウム」、JSTの支援を受けて小中学生に科学教育を行う「琉大ハカセ塾」、高校生を対象にした「琉大カガク院」等の科学人材育成プログラムに関わっております。沖縄生物学会でもこれらの経験を生かしたら幸いですので、よろしくお願い致します。（琉球大学大学院教育学研究科）

【庶務幹事 江藤 毅】 初めまして、江藤毅（えとうたけし）と申します。伊澤会長にお誘いいただき、今年度より幹事に加えていただくことになりました。昨年11月から琉球大学の教員として沖縄に住み始めました。その前は新潟県の佐渡島にいた島好きです。専門は、小型哺乳類の生理生態学です。人と気候のあたたかい沖縄に少しずつ馴染んでいながら、学会の運営に役立てるよう努めていきたいと思っております。新参者ですが、どうぞよろしくお願い致します。（琉球大学農学部亜熱帯地域農学科）



【編集幹事 城ヶ原貴通】 今年度より、二人目の編集幹事を努めさせていただくこととなりました。沖縄大学の城ヶ原貴通と申します。沖縄生物学会には、はるか昔、学部生の頃よりお世話になってきました。新会長の伊澤先生より幹事のご指名を受け、これまでお世話になってきた沖縄の生物・生物学さらには、本会をここまで繋いでこられた諸先輩方へわずかながらでも恩返しができるかと思ひ、承らせていただきました。微力ではありますが、尽力させていただきたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。（沖縄大学経法商学部 経法商学科）

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2020年9月時点)。任期は2年間で、2022年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)
副会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所) 上間 勉(沖縄生物教育研究会)

監査員 城間 恒宏(沖縄県教育委員会)
兼久 和也(琉球大学) 富永 篤(琉球大学)

評議員

大学関係 比嘉 俊(琉球大学) 金城 和三(沖縄国際大学)

渡邊 謙太(沖縄工業高等専門学校)

研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団)

永田 智史(沖縄県環境科学センター)

糸 正幸((株)イーエーシー)

行政機関 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)

大城 直樹(沖縄県環境部自然保護課)

高校関係 花原 努(コザ高校) 照屋 香(沖縄工業高校)

中学校関係 原戸 鉄二郎(安慶田中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)

杉尾 幸司(琉球大学) 竹村 明洋(琉球大学)

山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学) 小林 峻(琉球大学)

江藤 毅(琉球大学)

会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)

編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)

編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)

前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石哲也
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

原稿募集のお知らせ

これまで沖縄生物学会誌では、12月末に「締め切り日」を設け、この日までに投稿された原稿を全て掲載してきました。しかし、一部論文では審査が長引き、その結果、出版が本来の3月末から大幅に遅れ、9月や10月に発行されていきました。そこで、第45号より締め切り日を廃止し、期日までに投稿されたものでなく、印刷業者への入稿日までに審査の終わったものを掲載するように変更しました。

1回の審査には、早くても2週間、通常は2ヶ月程度要しています。編集委員会での承認や校正作業、さらには年度末の印刷業者の混み具合、査読者への負担等を考えると、年明けに審査の終了していない論文は掲載が非常に難しくなります。

つきましては、諸事情をご理解の上、何卒お早めのご投稿をお願いします。投稿に際しては、第45号より投稿規定が大幅に変更されていますので、ご注意ください。お問い合わせは、編集幹事の藤田喜久までお寄せ下さい。投稿用メールアドレス：okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp

原稿送付先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
沖縄生物学会編集委員会

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577
庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897
FAX：(098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座（郵便）：02030-8-30433 沖縄生物学会